

目指す学校像	児童に、保護者に、地域に信頼される中尾小学校
--------	------------------------

重点目標	1 中尾小読解力の向上を目指し、学びの自律化と学びの個別最適化に向けた授業の推進 2 児童が安心・安全に生活できる教育環境と教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールの充実と SSN との一体的な推進 4 教職員一人ひとりが力を発揮するための校内体制づくりと教職員の健康・安全の確保
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和6年2月16日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では全国平均と比べて国語は平均、算数は下回っている結果である。市の学習状況調査では、市平均をほぼ下回っている。 ○市学習状況調査では、理科に関して高学年で「好き」と答えた児童が市平均を上回っている。 ○算数科において中尾小スタンダードが確立されている。問題を解釈し、自分の考えをもち、伝える場面では、着実に成果が表れている。(課題) ○基礎学力の向上。 ○ICT の活用方法は進んでいるが、個別最適化に向けて活用の日常化が課題である。	・読解力の向上 ・児童アンケート ・教師アンケート ・基礎学力向上と個別最適化に向けた ICT の活用	①昨年度までの学校課題研究の成果をもとに読解力に関する状況を分析し、国語・算数・体育科に絞って、より効果的な手立てを設定し、中尾小読解力の向上を目指す。 ②スクールダッシュボードを活用し、児童が自己の結果を振り返り、自己評価力、自ら課題をもつ力、チャレンジする力を養うようにする。 ③算数科での中尾小スタンダードを生かしながら国語科や体育科での学校共通の取組を行い、指導方法を共有する。	①調査結果の分析結果等を踏まえ、授業改善の視点や手立てを設定することができたか。 ②児童が自らの採点や振り返りを基に、学習状況を掴み目標を立て、自らの課題に向けて行動したか。 ③指導方法の工夫改善について、8割以上の教師が、肯定的回答をすることができたか。					
2	(現状) ○全国及び市の学習状況調査での「学校に行くのが楽しい」との肯定的回答はほぼ平均を上回っている。 ○規範意識が高く、先生や友達の話をよく聞き、あいさつも自分から行う児童が多い。(課題) ○生徒指導・教育相談の充実についての保護者の肯定評価は高かったが、児童の評価はそれに比べて低く、児童への支援について引き続き丁寧な対応を継続していく。 ○教室に居られない児童への対応 ○学校の老朽化に伴い、校庭を含めた施設・設備の維持・管理が課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援や教育相談に向けた校内体制の充実 ・関わりを大切にした学校行事の充実 ・安全な教育環境	①スクールダッシュボード、心と生活のアンケート、相談ポスト等で児童の困りごとやいじめ事案を早期に発見し、生徒指導委員会やケース会議等の組織的対応を行う。 ②sc、ssw との相談体制と行政との連携を確実に実施する。 ③教室に入れない、居られない児童の居場所を利用した個別支援体制の運用を図る。 ④ペア学年での交流を重視した、集会や活動の実施	①「困ったことがあったら先生に相談できる」の児童の評価で85%以上の肯定的評価を得ることができたか ②コーディネーターを中心に教育相談日が活用され、SC や SSW と連携やフィードバックする場をもち、迅速・組織的対応が行えたか。 ③関係児童の居場所を「学習スペース」として活用できたか。 ④居学年との協力を通して、リーダーシップを発揮できたか、よいところを見つけられたか。					
3	(現状) ○地域の行事に参加したり地域が見守ってくれていると感じたりしている児童は全学年で市平均を上回っている。 ○学校運営協議会で地域に関する6年生の児童の意見文を伝えたことで、児童との繋がりが深まった。(課題) ○本年度はSSNとの連携を図りながら更に児童と地域の繋がりを推進していくことが課題である。	・めざす児童像を地域・家庭で共有するための場づくり ・SSN との連携による地域の一人ひとりの育成	①学校運営協議会に教職員や児童の積極的な会への参画を進め、協議会を焦点化・明確化し、活発な熟議を通して学校運営の改善につなげる。 ②SSN 会議参加者や地域の方に授業や学校行事の場を公開する。また、地域の行事への児童や保護者の積極的な参加を促す。 ③地域との交流や地域を生かした体験学習の充実を図る。	①学校運営協議会からの発信や提案が行われたか。 ②地域との関わりに関する学校評価アンケートにおいて、肯定的回答が90%を上回ったか。 ③SSNとの連携による児童とふれあうための活動を1つ以上実施できたか。					
4	(現状) ○中尾小読解力の系統表を国語科・算数科で作成した。 ○高学年の一部教科担任制の実施により、学年を全体で見合い、深い教材研究ができています。 ○ミドルリーダーを中心に、若手教員に向けた公開授業が実施されている。 ○教職員の同僚性が高まっている。(課題) ○キャリア段階に応じた、資質の向上が求められる。 ○働き方を意識した、業務改善と教職員の健康・安全を確保する。	・学校課題研究の充実 ・ICT 研修 ・一人ひとりがやりがいをもって力を発揮できる学校 ・働き方を意識した業務改善	①学校課題研究の中でICTの活用を重点化し、授業中での使用場面を意識した研修を継続して行う。 ②対話に基づく受講奨励を行い、一人ひとりの教員が、自らのキャリア段階に応じた研修への自主的な参加を促す。 ③ミドルリーダーを中心に活動の準備や作業を協力して行っていくことで、良好な人間関係の維持・継続を図る。 ④月1回の業務改善委員会、計画年休、学年で定める定時退勤日の実施。また、具体的な学校行事のスリム化を行う。(やり方、時間短縮等)	①全ての教員が児童の個別最適な学習形態を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②キャリア振り返りシートや全国教員研修プラットフォームを活用して、自己に必要な研修を選択し、自らの成長を意識することができたか。 ③職員ストレスチェックでの同僚性のポイントの向上が見られたか。 ④教職員の勤務状況に関するアンケートで肯定評価85%以上が得られたか。					